

三陸沿岸道路の開通が観光地へのアクセス性向上に与える影響について

岩手大学	学生員	○中山滉太
岩手大学	正会員	谷本真佑
岩手大学	学生員	佐藤史弥
岩手大学	正会員	南 正昭

1 はじめに

人口減少下にある我が国において、国内の観光需要が減少していく中、観光地のさらなる魅力創出や、観光による地域経済の活性化への取り組みが各地で行われている。岩手県では、東日本大震災により観光入り込み客数が一時的に減少したものの、近年は概ね震災前の水準に戻りつつある。しかし地域別に見ると、沿岸の被災地を含む地域では震災前の水準に戻っておらず、震災前の半数程度にとどまり、復興支援の一つとして観光振興が課題とされている。現在、三陸沿岸道路の全線開通に向けた工事が進められ、観光地へのアクセス性向上や回遊機会の増加が期待されている。

本研究では、復興支援道路に位置づけられる宮古盛岡横断道路・東北横断自動車道（釜石秋田線）および三陸沿岸道路の開通による、岩手県沿岸部の観光地へのアクセス性向上ならびに回遊機会の向上について、GISにより解析した結果を示し、今後の岩手県沿岸部における観光振興に向けた基礎資料を得ることを目的とする。

2 研究方法

2.1 使用データについて

岩手県沿岸地域の観光地のうち、特に集客が見込まれる観光地点を主要観光地と設定し、各観光地の住所データを参考に、GIS上で分析可能なポイントデータを作成した。

集計対象とする周遊観光地は、先行研究²⁾で使用されたポイントデータを用いた。

道路網データは、復興前についてはESRI Japan社が提供する「ArcGIS データコレクション道路網2012 岩手県版」を用い、これに基づき現状、復興後については、復興前の道路網データを作成した。

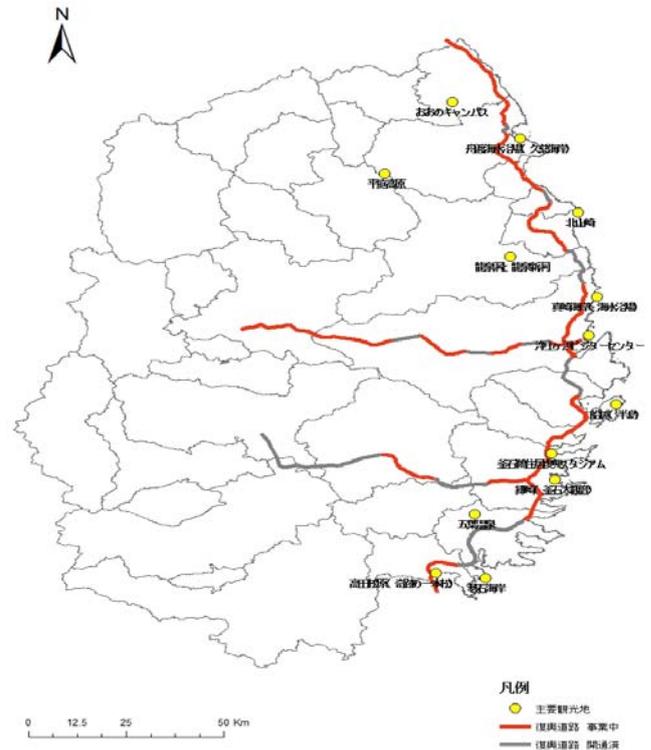


図1 主要観光地点と復興道路の開通状況

2.2 分析手順

前節にて設定した岩手県沿岸地域の各主要観光地から一定の時間内に到達できる交通拠点と周遊観光地数を集計し、三陸沿岸道路の開通前、現状、開通後で比較を行う。本研究での交通拠点は岩手県内の新幹線駅・空港・高速道路 IC・フェリーターミナルとした。高速道路 IC については、現時点で仙台・東京方面に直通している IC を対象としており、部分開通区間の IC は交通拠点として計上していない。解析に際し設定した時間は、交通拠点数の解析では 60 分および 90 分、周遊観光地数の解析では 30 分とした。

3 研究結果・考察

3.1 主要観光地から 60 分以内に到達可能な交通拠点

キーワード: 観光、アクセシビリティ

連絡先: 岩手大学工学部社会環境工学科 岩手県盛岡市上田四丁目 3-5 電話: 019-621-6453

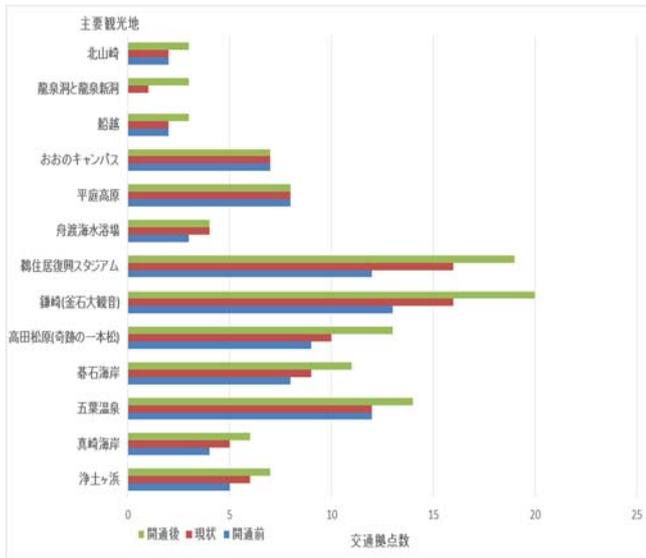


図2 主要観光地から60分圏内の交通拠点数

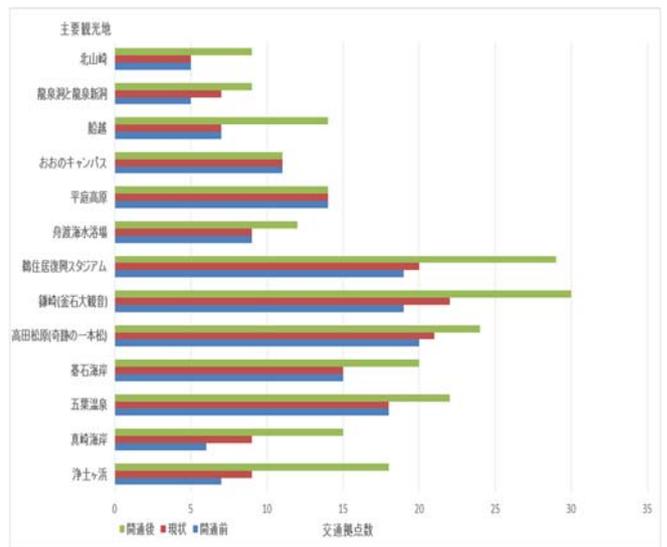


図3 主要観光地から90分圏内の交通拠点数

図2は、主要観光地から60分到達圏内にある交通拠点数を示している。復興道路から比較的離れた場所に位置しているおおのキャンパス（洋野町）および平庭高原（久慈市）では、復興道路の全線開通後においても交通拠点数に差は見られなかったものの、それ以外の主要観光地では交通拠点数の増加が確認できた。増加数はいずれも5箇所以内で、鶴住居復興スタジアム（釜石市）、鎌崎（釜石大観音・釜石市）で増加数が比較的高い傾向がみられた。三陸沿岸道路や東北横断自動車道（釜石秋田線）の全線開通により、内陸部に立地する花巻空港や東北新幹線の新花巻駅などへのアクセス性が影響しているものと思われる。

3.2 主要観光地から90分以内に到達可能な交通拠点

図3は、主要観光地から90分到達圏内にある交通拠点数を示している。復興道路等の開通に伴う到達可能な交通拠点数の増加傾向は、60分での解析と概ね同様であるが、全線開通による到達可能な拠点数の増加幅が拡大する傾向がみられた。

3.3 主要観光地からの周遊を考慮した解析

図4は、主要観光地からの周遊観光を想定し、主要観光地から30分圏内で到達できる観光地数の解析結果を示している。観光地数が現状と変わらない主要観光地が存在する一方、鶴住居復興スタジアム（釜石市）や釜石大観音（釜石市）のように、5件以上増加した主要観光地も確認された。これらの増加分には、内陸部の遠野市に立地する観光地が含まれており、広域の周遊観光に復興道路および復興支援道路が寄与できることが示唆された。

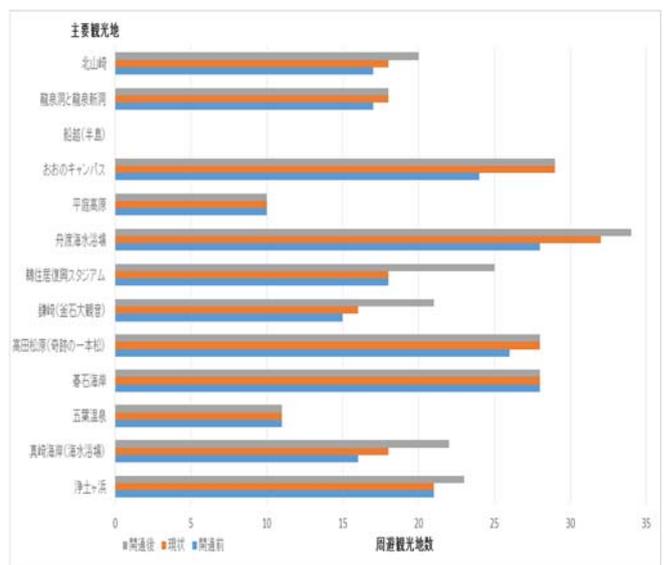


図4 主要観光地から30分圏内の周遊観光地数

4 おわりに

本研究では、震災以降観光振興が課題となっている岩手県沿岸地域を対象に、復興道路および復興支援道路の全線開通による観光地へのアクセス性について、交通拠点までの到達可能性および周遊観光の視点から解析を行った。

今後の課題として、実際の観光行動を踏まえた詳細な分析が挙げられる。

参考文献

- 1) 岩手県商工労働観光部観光課：H29 版岩手県観光統計概要，2018。
- 2) 伊柳辰徳，佐藤史弥，谷本真佑，南 正昭：岩手県における観光地の分類及びアクセス性について，平成29年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集，CD-ROM，2018。
- 3) 岩手県：みちのく岩手観光立県第2期基本計画，2014。